

水筒、やかんなど 金属製の容器の使用方法にご注意ください！ ～酸性の飲み物による金属の溶出に伴う中毒に注意～

暑い季節を迎え、冷たい飲み物を飲む機会も多くなってきました。

水筒を持ってのお出かけや、熱中症対策のためにスポーツ飲料をたくさん作ることもあるかもしれません。

でも、使い方を誤ると、場合によっては中毒を起こすことがあります。

あなたの使い方が大丈夫か、もう1度、使い方を確認してみましょう。



ポイント1 容器の内部にサビや傷がないか、よく確認しましょう！

サビや傷があると、もともと飲み物が直接ふれない部分が露出し、そこから金属成分が溶け出すことがあります。

特に、落としたりぶついたりした場合、見た目では異常がないように見えても破損していることがあります。使う前にはよく確認しましょう。

酸性の飲み物を 長時間 金属製の容器に保管しないようにしましょう！

ポイント2

乳酸菌飲料などの酸性の飲み物を金属製の容器に入れると、飲み物の中に金属が溶け出すことがあります。容器や飲み物の注意書きをよく確認し、長時間の保管はさげましょう。

もし長時間保管した場合は、いつもと違う味や色になっていないか、よく確認しましょう。

ポイント3 定期的に新しいものに交換しましょう！

古くなった容器は、劣化して内部が破損していることがあります。思わぬ事故を防ぐためにも、定期的に新しいものに交換しましょう。

※ 酸性の飲み物って、なに？

酸性の飲み物には、主に炭酸飲料や乳酸菌飲料、果汁飲料、スポーツ飲料があげられます。酸性である炭酸、乳酸、ビタミンC、クエン酸（柑橘類を初めとする果物に多く含まれます。）などを多く含む飲み物は、酸性度が高くなります。



傷などがある金属製の容器にこうした飲み物をいれると、容器に使われている金属が飲み物中に過剰に溶け出し、中毒を起こす可能性があります。

実際に起きた中毒事例

内側に傷がついた水筒による事例

水筒に入れたスポーツ飲料を飲んだ児童が、苦味を感じ、頭痛、めまい、吐き気などを発症しました。そのスポーツ飲料は、通常は乳白色のところ、青緑色に変化しており、検査の結果、高濃度の銅が検出されました。

水筒の内部が破損しており、飲み物を入れて長時間置いたことで、通常は飲み物が直接ふれない保温構造部分の内部まで飲み物が染み込んでしまったこと、さらにスポーツ飲料が酸性だったため、そこに使われていた銅が溶け出したことが原因と考えられました。



古くなったやかんによる事例

アルミニウム製のやかんでつくった乳酸菌飲料を飲んだ保育園児15名が吐き気、おう吐を発症しました。

やかんは、お茶をわかす際などに使われていましたが、内側が黒く変色し、一部が腐食していました。検査の結果、飲み残しの乳酸菌飲料から高濃度の銅が、やかんの変色部分からも銅が検出されました。

アルミニウム製のやかんで長期間にわたって繰り返しお茶などをわかしたことで、水道水等に含まれる銅がやかんの内側に大量に付着・蓄積し、そこに酸性の乳酸菌飲料を入れたため、飲み物の中に銅が溶け出したことが原因と考えられました。

たべもの安全情報館

検索

※「たべもの安全情報館」中のコンテンツ

「金属製の容器の使用方法にご注意ください！」をクリック

→ このリーフレットに関するお問合せ先

東京都健康安全研究センター 企画調整部 健康危機管理情報課 食品医薬品情報係 Tel.03-3363-3472

